

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 東海財務局長

【提出日】 2019年7月12日

【四半期会計期間】 第39期第3四半期(自 2019年3月1日 至 2019年5月31日)

【会社名】 株式会社AFC - HDアムスライフサイエンス

【英訳名】 AFC - HD AMS Life Science Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 浅山 雄彦

【本店の所在の場所】 静岡県静岡市駿河区豊田三丁目6番36号

【電話番号】 054-281-0585(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役管理本部管掌 田村 茂樹

【最寄りの連絡場所】 静岡県静岡市駿河区豊田三丁目6番36号

【電話番号】 054-281-5238(直通)

【事務連絡者氏名】 常務取締役管理本部管掌 田村 茂樹

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第1四半期より、日付の表示を和暦から西暦に変更しております。

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第38期 第3四半期 連結累計期間	第39期 第3四半期 連結累計期間	第38期
会計期間		自 2017年9月1日 至 2018年5月31日	自 2018年9月1日 至 2019年5月31日	自 2017年9月1日 至 2018年8月31日
売上高	(千円)	11,715,796	12,219,420	15,795,643
経常利益	(千円)	748,113	861,590	982,012
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	(千円)	507,860	667,653	736,680
四半期包括利益又は包括利益	(千円)	504,973	624,928	718,194
純資産額	(千円)	9,250,284	9,996,640	9,652,986
総資産額	(千円)	18,316,999	18,263,164	18,007,721
1株当たり四半期(当期) 純利益金額	(円)	41.73	47.47	58.28
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)	-	-	-
自己資本比率	(%)	50.5	54.7	53.6

回次		第38期 第3四半期 連結会計期間	第39期 第3四半期 連結会計期間
会計期間		自 2018年3月1日 至 2018年5月31日	自 2019年3月1日 至 2019年5月31日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	13.74	11.75

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、前第3四半期連結累計期間及び前連結会計年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び当社の連結子会社）が判断したものであります。

なお、「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 2018年2月16日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、財政状態の状況については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値で前連結会計年度との比較・分析を行っております。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

経営成績

当第3四半期（2018年9月1日から2019年5月31日）におけるわが国の経済は、米中貿易摩擦の動向など海外経済の不確実性が懸念要因としてあるものの、雇用・所得環境の改善により個人消費に持ち直しの動きが見られるなど、緩やかな回復基調が続きました。

当社グループが属する健康食品市場は、インバウンド需要の好調などにより、緩やかな成長基調を維持しております。近年、主力顧客層である高齢者層に加え、不足しがちな栄養素の補給や引き締まった身体づくり、スポーツのパフォーマンス向上を目的として、若年層における需要も増えております。

このような状況の下当社グループでは、前期に引き続き青汁などの定番商材の受注が高水準を維持したOEM部門に加え、美容商材のOEMが好調な海外部門が牽引し、当第3四半期の連結売上高は12,219百万円（前年同期比4.3%増）、営業利益は838百万円（前年同期比7.3%増）、経常利益は861百万円（前年同期比15.2%増）となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は、連結子会社において固定資産売却益を計上した影響も加わり、667百万円（前年同期比31.5%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

（ヘルスケア事業）

・OEM部門

当社グループの主力事業である当部門は、定番商材となった青汁の受注は引き続き高水準を維持したほか、口腔ケアや育毛ケア等のコンプレックス対策商材も受注が増加いたしました。一方、ここ数年市場の拡大を続けてきた乳酸菌関連商材の伸びに鈍化の兆しが見られたものの、累計では増収を維持し、当部門の売上高は前年同期比を上回る結果となりました。

・海外部門

アジア地域を主な取引先とする当部門は、引き続きベトナムのOEM顧客ならびにインドネシアのOEM顧客において、美容商材の受注が好調に推移いたしました。また、中国人の営業担当を起用し開拓を進めてきた中国のOEM顧客の受注が加わりました。その結果、当部門の売上高は前年同期比2桁増となりました。

・通信販売部門

機能性表示食品『イヌリン』を本年5月に新発売するとともに、これに続く新たな機能性表示食品の発売に向け、新商品の開発に取り組みました。また、定番の「爽快柑」シリーズの中で、『薬用育毛剤爽快柑』が、通販会員向けのキャンペーン実施により伸びました。しかしながら、通販市場の競争激化により、当部門の売上高は前年同期を下回りました。

・卸販売部門

積極的に展示会への出展を継続したことが奏功し、新規顧客獲得による美容商材の受注が増加しました。また、ハートフルシリーズにおいては、営業の強化ならびに、海外販売を行う国内事業者からの受注が好調に推移いたしました。その結果、当部門の売上高は前年同期を上回りました。

・店舗販売部門

百貨店主催の催事に積極的に出展したほか、セミナーや相談会を実施いたしました。また、人気商品『ラ・ヴィ・プラセンタ』が好調を維持したほか、昨年5月に新発売した『RICHアミノ3000』が、近年注目を集めている筋肉増強やロコモティブシンドローム対策の流れを受けて伸びてまいりました。その結果、既存店ベースでは前年同期の売上高を上回ったものの、店舗数の減少による影響を補い切れず、当部門の全体の売上高は前年同期を下回りました。

以上の結果、ヘルスケア事業の業績は、売上高11,274百万円（前年同期比4.0%増）となったものの、粗利益率の高い通信販売部門及び店舗販売部門の苦戦により、営業利益1,180百万円（前年同期比4.2%減）（全社費用調整前）となりました。

（医薬品事業）

医薬品市場は、大別して医師の処方箋に基づき病院・診療所、調剤薬局で購入する医療用医薬品市場と、医師の処方箋が要らず、ドラッグストアで購入する一般用医薬品市場に分けられます。

医療用医薬品につきましては、医療用ジェネリック医薬品である『ピムロ顆粒』が順調に売上を伸ばしております。また、『シルデナフィル錠』（勃起改善薬）、『フィナステリド錠』（AGA治療薬）につきましても、重点販売商品として営業を強化したことが奏功し、売上拡大に繋がっております。

一般用医薬品につきましては、かぜ関連市場においてドリンク剤市場が伸びている影響を受け、本草製薬の『葛根湯シロップ』及び『かぜ内服液』が、売上を伸ばしました。

以上の結果、医薬品事業の業績は、売上高が945百万円（前年同期比8.2%増）となったものの、ジェネリック医薬品製造設備の減価償却費が増加したことなどにより、営業損失33百万円（前年同期は46百万円の営業損失）となりました。

財政状態

(流動資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産合計は、前連結会計年度末に比べ327百万円増加し、9,449百万円となりました。この増加要因は主として、現金及び預金が204百万円、原材料及び貯蔵品が193百万円増加したことによるものであります。

(固定資産)

当第3四半期連結会計期間末における固定資産合計は、前連結会計年度末に比べ72百万円減少し、8,813百万円となりました。この減少要因は主として、無形固定資産のその他が62百万円増加した反面、連結子会社において物流センターを売却したことなどにより、有形固定資産全体で166百万円減少したことによるものであります。

(流動負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債合計は、前連結会計年度末に比べ774百万円増加し、7,015百万円となりました。この増加要因は主として、返済期限が1年以内に到来する長期借入金で流動負債へ振替られたことなどにより、短期借入金が726百万円増加したことによるものであります。

(固定負債)

当第3四半期連結会計期間末における固定負債合計は、前連結会計年度末に比べ862百万円減少し、1,250百万円となりました。この減少要因は主として、返済期限が1年以内に到来する長期借入金で流動負債に振替られたことなどにより、長期借入金が803百万円減少したことによるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ343百万円増加し、9,996百万円となりました。この増加要因は主として、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により利益剰余金が386百万円増加したことによるものであります。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(3) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は114,040千円であります。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	30,576,000
計	30,576,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2019年5月31日)	提出日現在発行数(株) (2019年7月12日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	14,144,720	14,144,720	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は100株であります。
計	14,144,720	14,144,720		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2019年3月1日～ 2019年5月31日		14,144,720		2,131,839		2,209,025

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2019年2月28日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2019年2月28日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 80,900		
完全議決権株式(その他)	普通株式 14,062,600	140,626	
単元未満株式	普通株式 1,220		
発行済株式総数	14,144,720		
総株主の議決権		140,626	

【自己株式等】

2019年2月28日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社AFC - HD アムスライフサイエンス	静岡県静岡市駿河区 豊田三丁目6番36号	80,900		80,900	0.57
計		80,900		80,900	0.57

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(2007年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(2019年3月1日から2019年5月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(2018年9月1日から2019年5月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,079,507	4,283,593
受取手形及び売掛金	2,058,065	2,065,094
商品及び製品	1,066,864	1,082,968
仕掛品	870,670	821,952
原材料及び貯蔵品	873,082	1,066,257
その他	185,862	160,390
貸倒引当金	12,233	30,704
流動資産合計	9,121,818	9,449,552
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,940,298	2,895,369
土地	4,088,766	3,895,660
その他(純額)	1,035,343	1,107,322
有形固定資産合計	8,064,408	7,898,351
無形固定資産		
のれん	2,040	1,275
その他	93,236	156,063
無形固定資産合計	95,277	157,338
投資その他の資産		
その他	788,840	779,640
貸倒引当金	62,623	21,718
投資その他の資産合計	726,216	757,921
固定資産合計	8,885,902	8,813,611
資産合計	18,007,721	18,263,164
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,005,461	1,955,800
短期借入金	2,873,581	3,600,321
未払法人税等	202,668	182,330
賞与引当金	149,900	227,550
ポイント引当金	18,139	18,366
その他	991,089	1,031,208
流動負債合計	6,240,839	7,015,576
固定負債		
長期借入金	1,316,728	513,377
役員退職慰労引当金	164,995	176,743
退職給付に係る負債	299,297	311,369
負ののれん	1,689	1,267
その他	331,185	248,190
固定負債合計	2,113,895	1,250,948
負債合計	8,354,734	8,266,524

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年5月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,131,839	2,131,839
資本剰余金	2,195,880	2,195,880
利益剰余金	5,411,873	5,798,252
自己株式	59,284	59,284
株主資本合計	9,680,309	10,066,687
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	27,322	70,047
その他の包括利益累計額合計	27,322	70,047
純資産合計	9,652,986	9,996,640
負債純資産合計	18,007,721	18,263,164

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

	(単位：千円)	
	前第3四半期連結累計期間 (自2017年9月1日 至2018年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2018年9月1日 至2019年5月31日)
売上高	11,715,796	12,219,420
売上原価	8,267,672	8,786,606
売上総利益	3,448,124	3,432,813
販売費及び一般管理費	2,666,611	2,594,393
営業利益	781,512	838,420
営業外収益		
受取利息	45	1,404
受取配当金	3,227	11,882
投資有価証券売却益	9,259	20,476
受取賃貸料	15,583	15,133
負ののれん償却額	422	422
その他	7,493	9,608
営業外収益合計	36,033	58,927
営業外費用		
支払利息	45,717	27,767
新株発行費	13,914	-
その他	9,800	7,989
営業外費用合計	69,432	35,757
経常利益	748,113	861,590
特別利益		
固定資産売却益	18	95,846
補助金収入	2,180	2,737
特別利益合計	2,198	98,584
特別損失		
固定資産売却損	652	-
固定資産除却損	1,860	14,093
特別損失合計	2,512	14,093
税金等調整前四半期純利益	747,799	946,081
法人税、住民税及び事業税	211,416	291,041
法人税等調整額	28,522	12,613
法人税等合計	239,939	278,428
四半期純利益	507,860	667,653
親会社株主に帰属する四半期純利益	507,860	667,653

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2017年9月1日 至2018年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2018年9月1日 至2019年5月31日)
四半期純利益	507,860	667,653
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,886	42,724
その他の包括利益合計	2,886	42,724
四半期包括利益	504,973	624,928
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	504,973	624,928
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(追加情報)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

手形割引高

	前連結会計年度 (2018年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年5月31日)
受取手形割引高	47,158千円	3,785千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年9月1日 至 2018年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年9月1日 至 2019年5月31日)
減価償却費	317,622千円	349,317千円
のれんの償却額	342千円	342千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2017年9月1日 至 2018年5月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2017年11月28日 定時株主総会	普通株式	60,543	5	2017年8月31日	2017年11月29日	利益剰余金
2018年4月6日 取締役会	普通株式	121,087	10	2018年2月28日	2018年5月25日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

当社は、2018年5月7日開催の取締役会決議に基づき、2018年5月22日を払込期日とする一般募集による新株発行を実施しました。この結果、当第3四半期連結累計期間において、資本金及び資本準備金がそれぞれ631,601千円増加し、当第3四半期連結会計期間末において資本金が2,037,099千円、資本剰余金が2,101,140千円となっております。

当第3四半期連結累計期間(自 2018年9月1日 至 2019年5月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年11月27日 定時株主総会	普通株式	140,637	10	2018年8月31日	2018年11月28日	利益剰余金
2019年4月9日 取締役会	普通株式	140,637	10	2019年2月28日	2019年5月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2017年9月1日 至 2018年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計
	ヘルスケア事業	医薬品事業	
売上高			
外部顧客への売上高	10,842,651	873,145	11,715,796
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-
計	10,842,651	873,145	11,715,796
セグメント利益又は損失()	1,232,245	46,353	1,185,891

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	1,185,891
全社費用(注)	404,379
四半期連結損益計算書の営業利益	781,512

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2018年9月1日 至 2019年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計
	ヘルスケア事業	医薬品事業	
売上高			
外部顧客への売上高	11,274,285	945,134	12,219,420
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-
計	11,274,285	945,134	12,219,420
セグメント利益又は損失()	1,180,159	33,132	1,147,027

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	1,147,027
全社費用(注)	308,607
四半期連結損益計算書の営業利益	838,420

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年9月1日 至 2018年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年9月1日 至 2019年5月31日)
1株当たり四半期純利益金額	41円73銭	47円47銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	507,860	667,653
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(千円)	507,860	667,653
普通株式の期中平均株式数(株)	12,171,022	14,063,751

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【その他】

第39期(2018年9月1日から2019年8月31日まで)中間配当については、2019年4月9日開催の取締役会において、2019年2月28日の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

中間配当金の総額	140,637千円
1株当たりの中間配当金額	10円00銭
支払請求の効力発生日及び支払開始日	2019年5月30日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年7月11日

株式会社AFC - HDアムスライフサイエンス
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士 水野雅史
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士 嶋田 聖

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社AFC-HDアムスライフサイエンスの2018年9月1日から2019年8月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2019年3月1日から2019年5月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2018年9月1日から2019年5月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社AFC-HDアムスライフサイエンス及び連結子会社の2019年5月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。